

『源氏物語』現代語訳書誌資料集成 —〈全訳〉編（与謝野晶子・谷崎潤一郎を除く）—

Bibliography of Modern Japanese Translations on "Tale of Genji": complete version, except YOSANO Akiko's and TANIZAKI Jun'ichiro's

佐藤由佳

SATOH Yuka

キーワード：『源氏物語』・現代語訳・書誌・全訳

本稿は、『源氏物語』の口語体による現代語全訳として刊行された書籍の書誌について調査し、まとめたものである。ここでいう〈全訳〉とは、概ね原文に忠実であり、五十四帖すべてを口語体にて現代語訳しているものを指す。なお、広く一般読者に向けて刊行された現代語訳を調査対象としているため、専門性の高い注釈書や古典の注釈叢書などの研究専門書および学習参考書関連本については除外している（注一）。また、与謝野晶子および谷崎潤一郎は、それぞれ複数回にわたり『源氏物語』を現代語訳しているが、この兩名については、別に「〈与謝野晶子〉編」「〈谷崎潤一郎〉編」としてまとめつつあるので、本稿では取り上げない。

書誌の掲出方法は、次の通り。

- 一、訳者（注二）ごとに掲出する（共著を含む）。
- 二、訳者の掲出順は、その訳者における初出の現代語訳の刊行年

月日が古い順とした。

- 三、書籍の出版形態により、訳者ごとに《単行本》、《叢書》、《文庫》に三分類した。

- 四、右の三分類中の配列については、刊行年月日の順とした。

注一：調査の限界性および「広く一般読者に向けて」という観点から、自費出版についても除外する。

注二：訳者氏名の字体については、奥付どおりとした。訳者名の下部に生没年を記した。

吉澤義則 一八七六～一九五四年

《単行本》

『逐語全訳 源氏物語』全六巻。文献書院。

- 〔一〕 (桐壺く花宴) 昭和 三年 八月三十一日 三五七頁
- 〔二〕 (あふひく少女) 昭和 三年 八月三十一日 五二四頁
- 〔三〕 (玉葛く眞木柱) 昭和 三年 八月三十一日 二八一頁
- 〔四〕 (梅枝く竹河) 昭和 三年 八月三十一日 五九九頁
- 〔五〕 (橋姫く寄生) 昭和 三年 八月三十一日 三〇九頁
- 〔六〕 (東屋く夢浮橋) 昭和 三年 八月三十一日 三二九頁

サイズ ……二二・〇×一五・〇cm
 一頁行数…一四行(本文)、三七行(頭注)
 一行字数…四〇字(本文)、 八字(頭注)

「第一巻」巻頭には、作者(紫式部)紹介などの解説が一頁分付されている。その後、「目次」・「源氏物語系圖」・「源氏物語年立」と続く。表紙書名(奥付に書名はない)の右横に「文學博士 吉澤義則主幹」とある。本文および表紙デザインは、《全譯王朝文學叢書》『源氏物語』と同じ。

奥付によると、上下に分けられ、それぞれ三冊ずつ函に納められていたことがうかがえる。上函、下函それぞれの定価は、四円五〇銭。

- 『逐語 源氏物語 全譯』全六巻。日本文學社。
- 〔一〕 (桐壺く花宴) 昭和十二年 九月 一日 三五七頁
 - 〔二〕 (あふひく乙女) 昭和十二年 九月 一日 五二四頁

- 〔三〕 (玉葛く眞木柱) 昭和二年 九月 一日 二八一頁
- 〔四〕 (梅枝く竹河) 昭和二年 九月 一日 五九九頁
- 〔五〕 (橋姫く寄生) 昭和二年 九月 一日 三〇九頁
- 〔六〕 (東屋く夢浮橋) 昭和二年 九月 一日 三二九頁

サイズ ……二二・八×一四・五cm
 一頁行数…一四行(本文)、三七行(頭注)
 一行字数…四〇字(本文)、 八行(頭注)

昭和三年八月三十一日に文献書院より刊行された『逐語全譯源氏物語』の再版発行。内容および定価は同じ。表紙の書名(奥付に書名はない)が変更されている。また、文献書院版表紙には「文學博士 吉澤義則主幹」とあったが、本書表紙は「文學博士 吉澤義則著」である。

なお、紙質が異なるため、一冊あたりの厚みが大幅に増す。

- 《叢書》
- 『源氏物語』全六巻。王朝文學叢書刊行會。
- 〔源氏ものかたり 一〕 (桐壺く花宴) 大正四年 六月十八日 三五七頁
 - 〔源氏ものかたり 二〕 (あふひく少女) 大正四年 一月二〇日 五二四頁
 - 〔源氏物語 三〕 (玉葛く眞木柱) 大正四年二月二十八日 二八一頁
 - 〔源氏ものかたり 四〕 (梅枝く竹河) 大正五年一〇月 六日 五九九頁

「源氏物語 うち十帖上」(橋姫ゝ寄生) 大正十三年 八月二十八日 三〇九頁
「源氏物語 宇治十帖下」(東屋ゝ夢浮橋) 大正十三年一月 八日 三三九頁

サイズ ……二二・〇×一五・〇cm

一頁行数…一四行(本文)、三七行(頭注)
一行字数…四〇字(本文)、八字(頭注)

《全譯王朝文學叢書》全一二卷の「第四卷」から「第九卷」。

奥付には、著作者として吉澤義則の名が単独で記されているが、内表紙裏に訳者として、次の名前が記されている。吉澤義則、加藤順三、春日政治、吉川理吉、能勢朝次、有川武彦、木枝増一、宮田和一郎、島田退蔵、鈴鹿三七。

「源氏ものかたり 一」の巻頭には「源氏物語系圖」、「源氏物語 うち十帖上」の巻頭には「宇治十帖略系圖」をそれぞれおく。

奥付書名は、叢書名と叢書の全体からみた巻数が記載されているのみである。右の書名は表紙に記されたもの。また、本文の前には内表紙として、次のようにそれぞれ記されている。

「源氏物語一 桐壺 帚木 空蟬 夕顔 若菜 末摘
花 紅葉賀 花宴」
「源氏物語二 あふひ さかき 花ちる里 須磨 明
石 滂標 蓬生 關谷 繪合 松風 うす雲 あさが

ほ 少女」

「源氏物語三 玉葛 初音 胡蝶 螢 常夏 篝火
野分 行幸 藤袴 眞木柱」

「源氏物語四 梅枝 藤裏葉 若菜(上) 同(下)
柏木 横笛 鈴虫 夕霧 御法 幻 雲隱 匂宮 紅
梅 竹河」

「源氏物語五 宇治十帖 上」

「源氏物語六 宇治十帖 下」

装丁・挿絵は、菊池契月、中村大三郎。天金。各巻の巻頭には、色付き挿絵が一枚付されている。

価格については、非売品となっているが、宮田和一郎著『頭注對譯 源氏物語』全五巻(文献書院)の「空蟬 夕顔 若紫」(大正一四年九月五日発行)の巻末広告に、「予約定価一冊 三円(送料一七銭)」との記載がある。

沼澤龍雄ほか 生没年は後記

《単行本》

『源氏物語總釋』全六巻。楽浪書院。

「第一巻」(桐壺ゝ葵) 昭和十三年 二月二十五日 五七四頁
「第二巻」(賢木ゝ榿) 昭和十二年 五月五日 五四七頁
「第三巻」(乙女ゝ藤裏葉) 昭和十二年 八月二十五日 五六〇頁
「第四巻」(若菜上ゝ鈴虫) 昭和十三年 一月二十五日 四六五頁

〔第五卷〕（夕霧）早蕨） 昭和二三年 九月三〇日 六五二頁
〔第六卷〕（宿木）夢浮橋） 昭和一四年 八月二〇日 五八四頁

サイズ ……一三・〇×一八・五cm
一頁行数…二四行（本文）、一八行（原文）
一行字数…二九字（本文）、一四字（原文）

帖によつて訳者が異なる。また、「第一卷」から「第六卷」までのそれぞれの「著者代表」も異なる。「著者代表」は、次の通り。

- 〔第一卷〕 沼澤龍雄
 - 〔第二卷〕 風巻景次郎
 - 〔第三卷〕 松尾聰
 - 〔第四卷〕 加藤順三 島田退蔵
 - 〔第五卷〕 藤田徳太郎
 - 〔第六卷〕 篠田太郎 山岸徳平
- 以下、それぞれの帖の訳者を記す。
- 「桐壺」「帚木」「空蟬」沼澤龍雄、「夕顔」「若紫」亀田純一郎、「末摘花」「紅葉賀」「花宴」「葵」平林治徳、「賢木」「花散里」尾上八郎、「須磨」「明石」「濔標」「蓬生」石村貞吉、「関屋」「繪合」「松風」「薄雲」「槿」風巻景次郎、「少女」「玉鬢」「初音」福井久蔵、「胡蝶」「螢」「常夏」「篝火」「野分」「行幸」佐伯梅友、「藤袴」

「眞木柱」「梅枝」「藤裏葉」松尾聰、「若菜上」加藤順三、「若菜下」「柏木」島田退蔵、「横笛」「鈴蟲」加藤順三、「夕霧」「御法」「幻」「（雲隠）」窪田敏夫、「匂宮」「紅梅」「竹河」志田延義、「橋姫」「椎本」久松潜一、「總角」「早蕨」藤田徳太郎、「宿木」「東屋」「浮舟」「蜻蛉」篠田太郎、「手習」「夢浮橋」山岸徳平。

なお、「第一卷」にある概説は、島津久基。現代語訳を上部に、原文はポイント数を落とした文字で下部にしている。注は、それぞれの帖の最後にまとめるという構成。

定価は、二円。

※『源氏物語總釋』全六巻については、それぞれの巻によつて著者代表が異なる。また、五十四帖のそれぞれの帖によつて訳者が異なる。よつて、本稿の分類においては、〈部分訳〉に分類するべきであろうが、かえつて混乱を招くであろうことから、〈全訳〉としてまとめた。

訳者生没年は、次の通り。

沼澤龍雄	（不明）	～一九四五年
亀田純一郎	一九〇四～	一九七〇年
平林治徳	一八八九～	一九五九年
尾上八郎	一八七六～	一九五七年
石村貞吉	一八七六～	一九七三年

風巻景次郎 一九〇二～一九六〇年

福井久蔵 一八六七～一九五一年

佐伯梅友 一八九九～一九九四年

松尾聰 一九〇七～一九九七年

加藤順三 一八八五～一九六一年

島田退蔵 一八八九～一九七七年

窪田敏夫 一八九九～一九六七年

志田延義 一九〇六～二〇〇三年

久松潜一 一八九四～一九七六年

藤田徳太郎 一九〇一～一九四五年

篠田太郎 一九〇一～一九八六年

山岸徳平 一八九三～一九八七年

窪田空穂 一八七七～一九六七年

《単行本》

『現代語譯 源氏物語』全八卷。改造社。

「第一卷」(桐壺～末摘花) 昭和二年 五月二〇日 三〇八頁

「第二卷」(紅葉賀～明石) 昭和二年 八月三〇日 三〇一頁

「第三卷」(滯標～玉鬘) 昭和二年 一月一五日 三一八頁

「第四卷」(初音～梅枝) 昭和二年 二月二七日 二六九頁

「第五卷」(藤裏葉～若菜下) 昭和二年 七月三〇日 二六四頁

「第六卷」(柏木～竹河) 昭和二年 一月三〇日 三〇八頁

「第七卷」(橋姫～宿木) 昭和四年 六月一〇日 三〇五頁

「第八卷」(東屋～夢浮橋) 昭和四年 七月三〇日 二九二頁

サイズ…一七. 五×二二. 二cm
一頁行数…一四行
一行字数…四三字

奥付の書名は、『現代語譯 源氏物語』となっているが、背および表紙の書名は『源氏物語』。それぞれの帖の最後に注をまとめている。解説は、窪田空穂が執筆。なお、「源氏物語絵巻」の解説については、田中一松が執筆。装丁は、中澤弘光。題箋は、窪田空穂。

「例言」において「逐語訳」であることが強調されている。同「例言」の最後に「本書は、「改造文庫」として刊行した物に、改訂を加へたものである。又、文庫本は未完の物であったのを、今回改版するにつき、完譯とした物である」とある。なお、「未完の文庫本」とは、昭和一四年一〇月から昭和一八年八月に刊行された『現代語譯 源氏物語』全八巻を指す。その「八」は、「柏木」で終わっている。

《叢書》

『現代語譯源氏物語』全二巻。角川書店。

「I」(桐壺～梅枝) 昭和四年一〇月一〇日 五六七頁

「II」(藤裏葉〜夢浮橋) 昭和四二年二月一〇日 五六四頁

サイズ ..二二・七×一六・〇cm
一頁行数…二四行(二段組み一段)
一行字数…二八字(二段組み一段)

《窪田空穂全集》全二九巻のうち「第二十七巻」、「第二十八巻」。「現代語訳 源氏物語」全八巻を収載。「I」の巻頭に、「はじめて源氏物語を読む人のために」をおく。「解題」は、窪田章一郎。

「付記」には、現代仮名遣いに改めたこと、各帖のはじめに石原昭平による略系図と梗概を加えたこと、挿入写真は、藤平春男、上野理、高橋尚子の協力を得たこと、本文校合には、窪田章一郎があたったことが記されている。

佐成謙太郎 一八九〇〜一九六六年

《単行本》

『対訳源氏物語』全八巻。明治書院。

- 「第一」(桐壺〜花宴) 昭和二六年 七月二五日 二九七頁
- 「第二」(葵〜松風) 昭和二六年一〇月 五日 六三二頁
- 「第三」(薄雲〜藤袴) 昭和二六年二月一〇日 九六四頁
- 「第四」(真木柱〜若菜下) 昭和二七年 四月一五日 一二九二頁
- 「第五」(柏木〜竹河) 昭和二七年 七月 五日 一五九一頁

「第六」(橋姫〜宿木) 昭和二七年 九月二五日 一九一四頁

「第七」(東屋〜夢浮橋) 昭和二七年二月二〇日 二二三七頁

「別巻」(総説・風俗概説・風俗図録・人名辞典・系図・年表)

昭和二八年 八月一〇日 二九二頁

サイズ ..二二・〇×一五・〇cm

一頁行数…二二行(本文)、二二行(原文)
一行字数…三六字(本文)、一八字(原文)

現代語訳は「第七」までで、「別巻」の背には、『源氏物語 総覧 対訳源氏物語 別巻』とある。それぞれの帖の冒頭に、その帖のあらすじや簡単な解説をおいている。小見出し付き。現代語訳部分のスペースを大きく取り、その上に原文がある。著者は、「まえがき」に「この貴重な文化財を、一字一句をも損じないように注意して、現代語訳に復元しようと試みたのが、この「対訳源氏物語」であります。」と記している。

吉沢義則・加藤順三・宮田和一郎・島田退蔵 生没年は後記

《叢書》

『源氏物語』全三巻。筑摩書房。

- 「(上)」(桐壺〜乙女) 昭和三六年 六月 五日 四三一頁
- 「(中)」(玉鬘〜竹河) 昭和三六年一月一〇日 四四八頁

「(下)」(橋姫〜夢浮橋) 昭和三七年 四月一〇日 三九五頁

サイズ ……二二・五×一五・五cm
一頁行数…二三行(二段組み一段)
一行字数…三二字(二段組み一段)

《古典日本文学全集》全二六卷(別巻一卷)の「4」「5」「6」。内表紙には、著者名のほかに、「改訂 山岸徳平」とある。装丁は、庫田發。各巻巻末には、「解説」「鑑賞」「研究」「系図」などが付される。本文中に、適宜写真、絵巻などが添えられている。附録あり。なお、上巻解説において、山岸徳平は、本書の原本について、次のように記す。

この口語訳原本は吉沢義則他訳「全訳王朝文学叢書」の中の一部として、大正十三年から昭和二年にわたり、王朝文学叢書刊行会の手によって刊行せられたもので、六冊からなっている。

訳者生没年は、次の通り。

吉沢義則 一八七六〜一九五四年
加藤順三 一八八五〜一九六一年
宮田和一郎 一八九〇〜一九八九年
島田退蔵 一八八九〜一九七〇年

『源氏物語』全三巻。筑摩書房。

「(上)」(桐壺〜乙女) 昭和三九年二月二〇日 四三一頁
「(中)」(玉鬘〜竹河) 昭和四〇年 一月二五日 四四八頁
「(下)」(橋姫〜夢浮橋) 昭和四〇年 二月二五日 三九五頁

サイズ ……二二・五×一五・五cm
一頁行数…二三行(二段組み一段)
一行字数…三二字(二段組み一段)

普及版。昭和三六年版には「装幀 庫田發」と記されているが、その記述はなく、製本については「有限会社 矢島製本所」から「和田製本工業所」に変更されている。

玉上琢彌 一九一五〜一九九六年

《文庫》

『源氏物語』全十巻。角川書店。

「第一巻」(桐壺〜若紫) 昭和三九年 五月一八日 三八〇頁
「第二巻」(末摘花〜花散里) 昭和四〇年 二月二五日 三九〇頁
「第三巻」(須磨〜松風) 昭和四一年 二月二五日 四一二頁
「第四巻」(薄雲〜胡蝶) 昭和四三年二月二〇日 三七五頁
「第五巻」(蛩〜藤裏葉) 昭和四四年 五月三〇日 四〇二頁
「第六巻」(若菜上・若菜下) 昭和四五年一〇月一〇日 四〇三頁
「第七巻」(柏木〜雲隱) 昭和四六年 六月二〇日 三九二頁

〔第八卷〕 (匂兵部卿〜総角)	昭和四七年	六月一日	五〇一頁
〔第九卷〕 (早蕨〜東屋)	昭和四七年	七月三〇日	三七四頁
〔第十卷〕 (浮舟〜夢浮橋)	昭和五〇年	一月一日	四七二頁

サイズ …一五・〇×一〇・五cm
 一頁行数…一八行
 一行字数…四三字

各巻の前半部分に原文(脚注あり)を掲げ、後半部分に小見出し付きで現代語訳を掲げる構成となっている。

原文の頁の行数、字数は次の通り。

- 一頁行数…一七行(本文)、三〇行(脚注)
- 一行字数…三四字(本文)、一二字(脚注)

刊行当初の文庫名は「角川文庫」であったが、その後「角川古典文庫」を経て「角川ソフィア文庫」となり、現在もなお刊行中。なお、「第一巻」の頁数は、「角川古典文庫」「角川ソフィア文庫」に共通するが、「角川文庫」は前・後半の中仕切りの二頁にノンブルを付さず、またカウントもしていないので、頁数は二頁少ない。

角川文庫版、角川古典文庫版のカバーおよび奥付の書名は『源氏物語』だが、表紙のみ『源氏物語 付現代語訳』となっている。角川ソフィア文庫版については、奥付のみ『源氏物語』で、カバー、表紙とも『源氏物語 付現代語訳』。

〔円地文子〕 一九〇五〜一九八六年

《単行本》

『源氏物語』全一〇巻。新潮社。

〔巻一〕 (桐壺〜若紫)	昭和四七年	九月二五日	三一七頁
〔巻二〕 (末摘花〜花散里)	昭和四七年	一〇月二五日	二七七頁
〔巻三〕 (須磨〜松風)	昭和四七年	一月二五日	二九七頁
〔巻四〕 (薄雲〜胡蝶)	昭和四七年	二月二五日	二七七頁
〔巻五〕 (螢〜藤裏葉)	昭和四八年	一月二二日	二九二頁
〔巻六〕 (若菜上・若菜下)	昭和四八年	二月二十日	二八二頁
〔巻七〕 (柏木〜匂宮)	昭和四八年	三月二十日	三〇〇頁
〔巻八〕 (紅梅〜総角)	昭和四八年	四月二十日	三二一頁
〔巻九〕 (早蕨〜東屋)	昭和四八年	五月二十日	二四九頁
〔巻十〕 (浮舟〜夢浮橋)	昭和四八年	六月二五日	三一六頁

サイズ …一九・七×二三・五cm
 一頁行数…一四行
 一行字数…四一字

「序」において、協力者として、犬養廉、清水好子、竹西寛子、阿部光子の名前があげられている。各帖のはじめに人物系図と光源氏のおおよその年齢を記す。和歌については原文のまま該当箇所におき、その頁の最後に青字で現代語訳を付している。見開き頁ごとに、匡郭のように青色の枠で本文

を囲む。月報ならびに「卷々の略系図」を記した葉つき。各卷、柄違いの函入り。装丁・題字は、高山辰雄。定価は、各卷八〇〇円。

なお、全巻購入者には、各卷の奥付の下部に付された「源氏物語手鏡・請求シール」を切り取り送付することにより、『源氏物語手鏡』（清水好子・森一郎・山本利達 著）が贈呈されるとする。この書は、非売品であったが、のちに新潮社の新潮選書より、同書名で昭和五〇年四月二五日に刊行された。

《文庫》

『源氏物語』全五卷。新潮社（新潮文庫）。

- 「卷一」（桐壺く花散里） 昭和五五年 二月二五日 五〇五頁
- 「卷二」（須磨く胡蝶） 昭和五五年 二月二五日 四九一頁
- 「卷三」（蛩く若菜下） 昭和五五年 三月二五日 四七九頁
- 「卷四」（柏木く総角） 昭和五五年 三月二五日 五二五頁
- 「卷五」（早蕨く夢浮橋） 昭和五五年 四月二五日 四七七頁

サイズ …一五・〇×一〇・五cm
一頁行数…一七行
一行字数…四一字

昭和四七年九月から刊行された『源氏物語』の文庫化。文

『源氏物語』現代語訳書誌資料集成（佐藤由佳）

庫化に伴い、全一〇巻を全五巻にまとめ、各巻末に「主要人物身分一覧」「図録」を加える。巻頭の「口語訳源氏物語の文庫発刊によせて」において、細部の改訂を行ったことがうかがえる。「巻五」巻末に竹西寛子の解説付き。カバーは、加山又造。カバー題字は、「本居宣長（刊本源氏物語玉の小櫛」内題より）」。

『源氏物語』全六卷。新潮社（新潮文庫）。

- 「一」（桐壺く葵） 平成二〇年 九月 一日 四八六頁
- 「二」（賢木く槿） 平成二〇年 九月 一日 四四四頁
- 「三」（乙女く藤裏葉） 平成二〇年一〇月 一日 四六九頁
- 「四」（若菜上く雲隠） 平成二〇年一〇月 一日 五三五頁
- 「五」（匂宮く宿木） 平成二〇年一月 一日 四八四頁
- 「六」（東屋く夢浮橋） 平成二〇年一月 一日 四〇四頁

サイズ …一五・〇×一〇・五cm
一頁行数…一六行
一行字数…三八字

昭和五五年に文庫として刊行したものを、全六巻にして再文庫化。それぞれの巻末に「解説」を付した。解説者は、「二」瀬戸内寂聴、「二」石田衣良、「三」山本淳子、「四」大塚ひかり、「五」酒井順子、「六」竹西寛子（昭和五五年版の

「巻五」に発表したものの再録）・林真理子。カバーは、昭和四七年に刊行された函の絵（高山辰雄）の一部分を用いている。

《今泉忠義》

一九〇〇～一九七六年

《単行本》

『源氏物語 現代語訳』全一〇巻。桜楓社。

- 〔一〕（桐壺～若紫） 昭和四九年一〇月二〇日 二〇五頁
- 〔二〕（末摘花～花散里） 昭和四九年一月二五日 一九七頁
- 〔三〕（須磨～絵合） 昭和四九年二月二五日 一九七頁
- 〔四〕（松風～初音） 昭和五〇年一月二五日 二〇四頁
- 〔五〕（胡蝶～藤裏葉） 昭和五〇年二月二五日 二三九頁
- 〔六〕（若菜上～柏木） 昭和五〇年四月二五日 二四六頁
- 〔七〕（横笛～竹河） 昭和五〇年五月二五日 二四四頁
- 〔八〕（橋姫～総角） 昭和五〇年七月二五日 一八一頁
- 〔九〕（早蕨～東屋） 昭和五〇年八月二五日 一九〇頁
- 〔十〕（浮舟～夢浮橋） 昭和五〇年十月二五日 二六一頁

サイズ ..二二・〇×一五・〇cm
 一頁行数…二〇行（本文）、三四行（脚注）
 一行字数…四八字（本文）、一〇字（脚注）

『源氏物語』全一三巻（現代語訳篇一〇巻、本文篇三巻）

の現代語訳篇一〇巻である。脚注つきの現代語訳。帖の初めには「梗概」として小見出しとその対応ページを付している。各巻巻末には、「主要人物系図」をおく。また、「十」の巻末には、「主要人物一覧」「正誤表」を付す。

依拠本文は『首書源氏物語』。「はしがき」には、次のことが記されている。「本書は、森昇一・岡崎正繼兩氏校訂の首書源氏物語の本文篇と、今後刊行せられるはずの源氏物語の語法研究篇とともに三部作になる」予定（「語法研究篇」については、著者急逝のため、「藤袴」巻の途中までで未完成となった）。そこで、「首書源氏物語本文篇」の対応ページを現代語訳の下に入れていく。さらに、『日本古典文学大系』（岩波書店）の対応ページを括弧書きにて示す。挿絵は、江戸初期に刊行された『絵入源氏物語』のすべての絵を使用。定価は、各巻一、二〇〇円。

《文庫》

『源氏物語 全現代語訳』全一〇巻。講談社（講談社学術文庫）。

- 〔一〕（桐壺～空蟬） 昭和五三年一月一〇日 一六五頁
- 〔二〕（夕顔～若紫） 昭和五三年二月一〇日 一八四頁
- 〔三〕（末摘花～葵） 昭和五三年二月一〇日 二二四頁
- 〔四〕（賢木～須磨） 昭和五三年三月一〇日 一九七頁
- 〔五〕（明石～澹標） 昭和五三年四月一〇日 一四四頁

〔六〕	(蓬生〜松風)	昭和五三年	四月二〇日	一三三頁
〔七〕	(薄雲〜少女)	昭和五三年	五月一〇日	一八八頁
〔八〕	(玉鬘〜胡蝶)	昭和五三年	五月一〇日	一四五頁
〔九〕	(螢〜行幸)	昭和五三年	六月一〇日	一六九頁
〔十〕	(藤袴〜藤裏葉)	昭和五三年	六月一〇日	一八五頁
〔十一〕	(若菜(上))	昭和五三年	八月一〇日	一七一頁
〔十二〕	(若菜(下))	昭和五三年	八月一〇日	一六六頁
〔十三〕	(柏木〜鈴虫)	昭和五三年	九月一〇日	一三六頁
〔十四〕	(夕霧〜御法)	昭和五三年	九月一〇日	一六四頁
〔十五〕	(幻〜竹河)	昭和五三年一〇月一〇日		一七三頁
〔十六〕	(橋姫・椎本)	昭和五三年一〇月一〇日		一四五頁
〔十七〕	(総角・早蕨)	昭和五三年一〇月一〇日		一九九頁
〔十八〕	(宿木・東屋)	昭和五三年一〇月一〇日		二七四頁
〔十九〕	(浮舟・蜻蛉)	昭和五三年一〇月一〇日		二三四頁
〔二十〕	(手習・夢浮橋)	昭和五三年一〇月二二日		二〇一頁

サイズ …一四・八×一〇・五 cm
 一頁行数…一七行
 一行字数…四一字

『源氏物語 現代語訳』全一〇巻の修訂改編版。「まえがき」は田邊正男。「本文庫では、著作権者の了解を得て、一般読者に読みやすいように、訳文全部を現代仮名遣いに改

め、難読と思われる漢字には広範囲にルビをつけ、また、小説として親しみやすいように、句点および会話を改行にするなどの配慮をほどこしました。」とある。《単行本》『源氏物語 現代語訳』において、「梗概」として帖の冒頭におかれていた小見出しは、本文中の該当箇所におかれている。装丁は、辻村益朗。カバーは、「源氏物語絵巻」。カバーおよび表紙には、それぞれその巻に収められている帖名を付されている。

『新装版 源氏物語 全現代語訳』全七巻。講談社(講談社学術文庫)。

〔一〕	(桐壺〜葵)	平成一二年一月一〇日	五六五頁
〔二〕	(賢木〜松風)	平成一三年二月一〇日	四六七頁
〔三〕	(薄雲〜行幸)	平成一三年六月一〇日	四九七頁
〔四〕	(藤袴〜若菜(下))	平成一三年一月一〇日	五一七頁
〔五〕	(柏木〜竹河)	平成一四年三月一〇日	四六五頁
〔六〕	(橋姫〜東屋)	平成一四年一〇月一〇日	六一五頁
〔七〕	(浮舟〜夢浮橋)	平成一五年一月一〇日	四二九頁

サイズ …一四・八×一〇・五 cm
 一頁行数…一七行
 一行字数…四一字

『源氏物語 全現代語訳』全一〇巻の合本新装版。装丁は、

蟹江征治。カバーには、それぞれその巻に収められている帖名が付されている。

秋山 虔 一九二四～二〇一五年

《叢書》

『源氏物語』全一〇巻。小学館。

- 〔一〕 (桐壺～若紫) 昭和五八年 一月三一日 四六六頁
- 〔二〕 (未摘花～花散里) 昭和五八年一〇月三一日 四〇六頁
- 〔三〕 (須磨～絵合) 昭和五九年 五月三一日 三八二頁
- 〔四〕 (松風～胡蝶) 昭和六〇年 二月二八日 四五〇頁
- 〔五〕 (螢～藤裏葉) 昭和六〇年 七月三一日 四三〇頁
- 〔六〕 (若菜上・若菜下) 昭和六一年 七月三一日 四二二頁
- 〔七〕 (柏木～幻) 昭和六二年 五月三一日 四一七頁
- 〔八〕 (匂宮～総角) 昭和六二年一〇月三一日 五〇九頁
- 〔九〕 (早蕨～東屋) 昭和六三年 四月三〇日 三八九頁
- 〔十〕 (浮舟～夢浮橋) 昭和六三年一〇月三一日 四九一頁

サイズ .. 一三三.〇×一九.五cm

一頁行数…二〇行 (現代語訳頁、二段組みの一段)

一行字数…二六字 (現代語訳頁、二段組みの一段)

《完訳 日本の古典》全六〇巻の「14」から「23」。本

書は極めて専門書に近い内容ではあるが、次の理由から掲出

した。「凡例」において、「一般読者にもわかりやすく書き下ろした」と記されており、一般読者を対象にしていることがうかがえる。また、叢書タイトルにおいて「完訳」と題されている点も、現代語訳であることを強調していると考えられること。なお、奥付においては「校注・訳者 阿部秋生 秋山虔 今井源衛 鈴木日出男」と記されているが、「凡例」において「現代語訳は秋山虔が執筆した」と明記されている。よって、本稿の趣旨に沿い、訳者を秋山虔とした。

なお、「二」の定価については、昭和五八年三月末までは、「発刊記念特別定価一、三五〇円」とあるが、その後は一、七〇〇円。

現代語訳頁以外の行数、字数については、次の通り。

- 一頁行数…一四行 (原文頁の原文)、一七行 (原文頁の脚注)、一八行 (解説等の頁)
- 一行字数…三五字 (原文頁の原文)、一五字 (原文頁の脚注)、四八字 (解説等の頁)

中井和子 一九二七～二〇〇九年

《単行本》

『現代京ことば訳 源氏物語』全三巻。大修館書店。

〔一〕 桐壺―乙女 平成 三年 六月 一日 六八五頁

〔二〕 玉鬘―雲隠 平成 三年 六月 一日 一三六四頁

「三 匂兵部卿―夢浮橋」平成 三年 六月 一日 一九九五頁

サイズ ……二二・五×一六・〇cm
一頁行数…一八行(本文)、三二行(脚注)
一行字数…四五字(本文)、一二字(脚注)

各帖の初めに人物系図と解説つき。イラスト入り脚注あり。

「序」において著者は、「京ことば」で現代語訳を試みた理由を次のように記している。

……ここに現代の京ことばで『源氏物語』を訳出したのは、方言の中には、未だ自然性は保たれており、まして、『源氏物語』を育んだ京都の土壌では、人は未だ自然と融合しながら生きていられるからである。京ことばの、あの幾重にもつぎ足し重ねて語られる表現方法には、古い日本の表現の仕方がまだ残っていると思われるからである。

装丁は、中川栄一。「挿画／富家保江 題字／中井和子」とある。

定価は、「全三冊揃定価 二〇、六〇〇円(本体二〇、〇〇〇・税六〇〇円)」と記載あり。頁数については、三巻通し頁数。

『源氏物語』現代語訳書誌資料集成(佐藤由佳)

『現代京ことば訳 源氏物語「新装版」』全五巻。大修館書店。

- 「一 桐壺―明石」平成一七年 六月二〇日 四六三頁
- 「二 滂標―藤の裏葉」平成一七年 六月二〇日 五一八頁
- 「三 若菜―雲隠」平成一七年 六月二〇日 三八二頁
- 「四 匂兵部卿―早蕨」平成一七年 六月二〇日 二五五頁
- 「五 宿木―夢の浮橋」平成一七年 六月二〇日 三七二頁

サイズ ……二二・九×一五・三cm
一頁行数…一八行(本文)、三二行(脚注)
一行字数…四五字(本文)、一二字(脚注)

『現代京ことば訳 源氏物語』の新装版。巻頭に「新装版序」をおく。装丁は、竹内由美子。「カバー・表紙・扉絵／『有職源氏鑑』(八寶堂刊)より 本文挿画／富家保江」とある。

瀬戸内寂聴 一九二二年～

《単行本》

『源氏物語』全一〇巻。講談社。

- 「巻一」(桐壺～若紫) 平成 八年二月一日 二九六頁
- 「巻二」(末摘花～花散里) 平成 九年 二月二五日 二九八頁
- 「巻三」(須磨～松風) 平成 九年 四月二五日 三一七頁
- 「巻四」(薄雲～胡蝶) 平成 九年 五月二四日 二八七頁

「巻五」	(螢〜藤裏葉)	平成 九年 七月一〇日	三二三頁
「巻六」	(若菜上・若菜下)	平成 九年 九月一三日	二八九頁
「巻七」	(柏木〜紅梅)	平成 九年一〇月三〇日	三四七頁
「巻八」	(竹河〜総角)	平成 九年十二月一九日	三三三頁
「巻九」	(早蕨〜東屋)	平成一〇年 二月二七日	二八一頁
「巻十」	(浮舟〜夢浮橋)	平成一〇年 四月 二日	三四四頁

サイズ ……二二・五×一六・〇 cm
 一頁行数…一七行
 一行字数…四五字

それぞれの巻末には、「源氏のしおり」、「参考図録」、「語句解釈」が付されている。校閲者は、八寫正治、小山清文(ただし、「巻十」については八寫正治のみ)。「年立」、「語句解釈」は、高木和子が担当している。装丁は、辻村益朗、装画は、石踊達哉。函入り、カラー口絵つき。帯には「講談社創業90周年記念企画」とある。
 定価は、各巻二、五二四円(税別)。

『源氏物語〈新装版〉』全一〇巻。講談社。

「巻一」	(桐壺〜若紫)	平成一三年 九月 七日	二八六頁
「巻二」	(末摘花〜花散里)	平成一三年一〇月 九日	二七九頁
「巻三」	(須磨〜松風)	平成一三年一月 七日	二九九頁

「巻四」	(薄雲〜胡蝶)	平成一三年二月 七日	二七〇頁
「巻五」	(螢〜藤裏葉)	平成一四年 一月 七日	二九六頁
「巻六」	(若菜上・若菜下)	平成一四年 二月 七日	二七〇頁
「巻七」	(柏木〜紅梅)	平成一四年 三月一日	三三三頁
「巻八」	(竹河〜総角)	平成一四年 四月 八日	三〇五頁
「巻九」	(早蕨〜東屋)	平成一四年 五月一日	二五七頁
「巻十」	(浮舟〜夢浮橋)	平成一四年 六月 七日	三三三頁

サイズ ……一九・五×二三・五 cm
 一頁行数…一八行
 一行字数…四二字

新装版においては、函および口絵が削除されている。巻末の「源氏のしおり」、「語句解釈」についてはそのままであるが、「参考図録」については、「系図」のみを残している。新装版の巻頭に新たに加えられた「新しい読者のために」の中に、「前より廉価で、若い人々にも手に入り易い本になって世に出ることはたいそう嬉しい」と記している。

装丁は、菊地信義。装画は、堀川理万子。

「巻一」の帯には、「特製CD版 瀬戸内寂聴講演「源氏物語の愛」応募者全員に特別提供」とある。帯の折り返し部分にある応募シールを切り取り、郵便切手二八〇円を同封することにより入手できる(締め切りは、平成一四年八月末)。

定価は、各巻一、三〇〇円（税別）。

《文庫》

『源氏物語』全一〇巻。講談社（講談社文庫）。

「巻一」（桐壺〜若紫）	平成一九年 一月二六日	三六二頁
「巻二」（末摘花〜花散里）	平成一九年 二月二五日	三六四頁
「巻三」（須磨〜松風）	平成一九年 三月二五日	三八三頁
「巻四」（薄雲〜胡蝶）	平成一九年 四月二三日	三四七頁
「巻五」（蛩〜藤裏葉）	平成一九年 五月二五日	三七八頁
「巻六」（若菜上・若菜下）	平成二〇年 六月二五日	三五二頁
「巻七」（柏木〜紅梅）	平成二〇年 七月二三日	四二六頁
「巻八」（竹河〜総角）	平成二〇年 八月二〇日	三九二頁
「巻九」（早蕨〜東屋）	平成二〇年 九月二四日	三三五頁
「巻十」（浮舟〜夢浮橋）	平成二〇年一〇月二六日	四一〇頁

サイズ …一四・八×一〇・五cm
一頁行数…一六行
一行字数…三八字

新装版を底本としている。ただし、新装版の巻頭に付されている「新しい読者のために」はない。カバーイラストは、国分チエミ。カバーデザインは、丸尾靖子。

『源氏物語』現代語訳書誌資料集成（佐藤由佳）

尾崎左永子 一九二七年〜

《単行本》

『新訳 源氏物語』全四巻。小学館。

「一」（桐壺〜関屋）	平成 九年一〇月一〇日	二五二頁
「二」（絵合〜真木柱）	平成 九年一月二〇日	二六八頁
「三」（梅枝〜竹河）	平成 九年二月二〇日	二五四頁
「四」（橋姫〜夢浮橋）	平成一〇年 一月一〇日	二五四頁

サイズ …一九・五×二三・五cm
一頁行数…一六行
一行字数…四二字

語句解説や系図などの「鑑賞のしおり」という八頁にわたる冊子が各巻に挟みこまれている。「刊行の意図」を、「物語を支える「雅び」の味を損わずに、ともかく「源氏物語をらくに読み通す」ことを主眼にした」とし、また、「逐語訳の部分と軽く通過する部分の濃淡をつけた」と、「鑑賞のしおり」に記している。装丁は、吉田弘子。

定価は、一、六〇〇円＋税。

※〈意識〉的などところもあるが、著者が「読み通す」ことを強く意識していることから本稿では、〈全訳〉として掲出した。

大塚ひかり 一九六一年

《文庫》

『源氏物語』全六巻。筑摩書房。

- 「第一巻 桐壺〜賢木」 平成二〇年二月一〇日 五八二頁
- 「第二巻 花散里〜少女」 平成二〇年二月一〇日 五二五頁
- 「第三巻 玉鬢〜藤裏葉」 平成二二年 三月一〇日 五四一頁
- 「第四巻 若菜上〜夕霧」 平成二二年 六月一〇日 六二〇頁
- 「第五巻 御法〜早蕨」 平成二二年 九月一〇日 五四五頁
- 「第六巻 宿木〜夢浮橋」 平成二二年 一月一〇日 六三九頁

サイズ ..一四・八×一〇・五cm
 一頁行数…一七行(本文)、一八行(注釈)
 一行字数…四〇字(本文)、四四字(注釈)

この現代語訳について著者は、「はじめに」および「凡例」においてその特徴をいくつかあげている。代表的なものとして、「原文重視の逐語訳」かつ「分かる『源氏物語』」を目標とした点、逐語訳だけで理解しがたい部分については、「(ひかりナビ)をもうけ」適宜解説を付けた点などがあげられる。目次および各帖の冒頭には、主要登場人物の年齢を括弧書きで入れつつ、簡単なあらすじを示し、加えて各帖の冒頭には人物系図も記している。

各巻末には、「付録」として、平安時代の生活背景などを

解説したものを付す。その多くについては、『もっと知りた
い源氏物語』(大塚ひかり、日本実業出版社)に所収したも
のを「加筆のうえ収録した」とある。

カバーは、「カバー作品 吉岡幸雄(『源氏物語の色辞典』
紫紅社刊より)、撮影 小林庸浩、カバーデザイン 船木有紀」
である。

上野榮子 一九二五年(不明)

《単行本》

『源氏物語』全八巻・別巻一巻。日本経済新聞出版社。

- 「第一巻」(桐壺〜末摘花) 平成二二年 一月一〇日 三一頁
- 「第二巻」(紅葉賀〜明石) 平成二二年 一月一〇日 三〇七頁
- 「第三巻」(濡標〜玉鬢) 平成二二年 一月一〇日 三四七頁
- 「第四巻」(初音〜藤裏葉) 平成二二年 一月一〇日 三三三頁
- 「第五巻」(若菜上〜柏木) 平成二二年 一月一〇日 三〇七頁
- 「第六巻」(横笛〜竹河) 平成二二年 一月一〇日 三一七頁
- 「第七巻」(橋姫〜宿木) 平成二二年 一月一〇日 三七五頁
- 「第八巻」(東屋〜夢浮橋) 平成二二年 一月一〇日 四〇三頁
- 「源氏物語登場人物系図」 平成二二年 一月一〇日 六二頁

サイズ ..二二・〇×二五・〇cm
 一頁行数…一七行
 一行字数…一五字

「源氏物語登場人物系図」を別冊として刊行。

主婦である訳者が、「昭和五十二年師走に、思い立って口語に直し始め」、一八年間をかけて完成させた。それを平成二〇年一月、訳者八〇歳を記念し自費出版。そのうち日本経済新聞出版社より刊行。

「日本経済新聞出版社版 あとがき」において訳者は、「この訳の底本として山岸徳平校注『源氏物語』（日本古典文学大系、岩波書店刊）を使い、文中の和歌の表記は岩波文庫の『源氏物語』（山岸徳平校注）に従いました。また、校注の多くを訳に使わせていただいております。」としている。

定価は、全巻セット販売で、「本体 二六、六六七円＋税」。

林 望 一九四九年

《単行本》

『謹訳 源氏物語』全一〇巻。祥伝社。

- 〔一〕（桐壺く若紫） 平成二三年 三月二五日 三四一頁
- 〔二〕（末摘花く花散里） 平成二三年 五月 一日 三三七頁
- 〔三〕（須磨く松風） 平成二三年 六月二〇日 三六九頁
- 〔四〕（薄雲く胡蝶） 平成二三年 一月 五日 三六八頁
- 〔五〕（蛭く藤裏葉） 平成二三年 二月一〇日 三七九頁
- 〔六〕（若菜上・若菜下） 平成二三年 六月二〇日 三四九頁

〔七〕（柏木く幻） 平成二三年 二月一〇日 三七〇頁

〔八〕（匂宮く総角） 平成二四年 七月一〇日 四四七頁

〔九〕（早蕨く東屋） 平成二五年 二月一〇日 三二八頁

〔十〕（浮舟く夢浮橋） 平成二五年 六月一〇日 三九八頁

サイズ …一九・〇×二二・三cm

一頁行数…一七行

一行字数…三八字

「祥伝社創立四〇周年記念作品」として刊行。装丁は、林望。本文デザインは、祖父江慎。なお、造本方法について巻末に次のようにある。

本書は「コデイクス装」という新しい造本法を採用しました。背表紙のある通常の製本形態とはことなり、どのページもきれいに開いて読みやすく、平安朝から中世にかけて日本の貴族の写本に用いられた「綴葉装」という古式床しい装訂法を彷彿とさせる糸綴しの製本です。

各巻のカバーの表と背には「源氏香・香の図」を施す。また、表紙カバー折り返し部分には「本書の系図」、裏表紙カバー折り返し部分には、平安朝の生活様式等に関するイラストが描かれている。そのイラストは、桜木由加里。月報と葉

付き。

《文庫》

『謹訳 源氏物語 改訂新修』全一〇巻。祥伝社。

- 〔一〕 (桐壺〜若紫) 平成二九年 九月二〇日 四一〇頁
- 〔二〕 (末摘花〜花散里) 平成二九年 九月二〇日 四〇四頁
- 〔三〕 (須磨〜松風) 平成二九年 九月二〇日 四五三頁
- 〔四〕 (薄雲〜胡蝶) 平成二九年 九月二〇日 四三六頁
- 〔五〕 (蛭〜藤裏葉) 平成三〇年 二月二〇日 四五二頁
- 〔六〕 (若菜上・若菜下) 平成三〇年 五月二〇日 四三四頁
- 〔七〕 (柏木〜幻) 平成三〇年 八月二〇日 四五三頁
- 〔八〕 (匂宮〜総角) 未刊
- 〔九〕 (早蕨〜東屋) 未刊
- 〔十〕 (浮舟〜夢浮橋) 未刊

サイズ .. 一五.二×一〇.五 cm
 一頁行数 .. 一五行
 一行字数 .. 四〇字

『謹訳 源氏物語』を増補修訂したもの。新たに小見出しを付し、巻末に「訳者のひとこと」「本書の主な登場人物関係図」「解説」を付け加えている。「訳者のひとこと」は、『単行本』の月報に同じ。「本書の主な登場人物関係図」は、

『単行本』の表紙カバー折り返し部分の「本書の系図」と同じ。

平成三〇年二月現在、「八」から「十」は未刊。順次刊行予定である。

荻原規子

一九五九年〜

《単行本》

『源氏物語 紫の結び』全三巻。理論社。

- 〔一〕 平成二五年 八月(以下、記載なし) 三六七頁
 - 〔二〕 平成二五年二月(以下、記載なし) 三五二頁
 - 〔三〕 平成二六年 一月(以下、記載なし) 三三五頁
- 『源氏物語 宇治の結び』全二巻。理論社。
- 〔上〕 平成二九年 四月(以下、記載なし) 三六六頁
 - 〔下〕 平成二九年 四月(以下、記載なし) 三六〇頁

『源氏物語 つる花の結び』全一巻。理論社。

- 〔上〕 平成三〇年 六月(以下、記載なし) 三四七頁
- 〔下〕 平成三〇年 六月(以下、記載なし) 三六七頁

サイズ .. 一九.五×一三.五 cm
 一頁行数 .. 一五行
 一行字数 .. 三九字

『源氏物語』を二つの系統に分けて再構成し、現代語訳す

る。

『源氏物語 紫の結び』は、「メインストーリーとなる光源氏、藤壺の宮、紫の上の一生が一気に読める」ように、次の帖を取り上げている。「桐壺」「若紫」「紅葉賀」「花宴」「葵」「賢木」「花散里」「須磨」「明石」「漣標」「絵合」「松風」「薄雲」「朝顔」「少女」「梅枝」「藤裏葉」「若菜上」「若菜下」「柏木」「横笛」「鈴虫」「御法」「幻」「雲隠」。

『源氏物語 宇治の結び』は、「〈宇治十帖〉で知る、源氏の孫たちが主人公となった新たな恋物語」である。次の帖を取り上げている。「匂宮」「橋姫」「椎本」「総角」「早蕨」「宿木」「東屋」「浮舟」「蜻蛉」「手習」「夢浮橋」。

『源氏物語 つる花の結び』は、「中流階級の女人たちとの逢瀬から始まり、〈玉鬘十帖〉へと続く物語」をまとめている。次の帖を取り上げている。「帚木」「空蟬」「夕顔」「末摘花」「蓬生」「関屋」「玉鬘」「初音」「胡蝶」「螢」「常夏」「篝火」「野分」「行幸」「藤袴」「真木柱」「夕霧」「紅梅」「竹河」。「上」の「はじめに」において、現代語訳を行うにあたっての姿勢について、「地の文から敬語をはぶき、逐語訳ではありませんが、解釈以上の創作は加えていません」と記している。「下」の巻末に、三田村雅子執筆「荻原源氏の挑戦」をおく。装丁は、中嶋香織。挿絵は、君野可代子。

定価は、各巻一、七〇〇円＋税。

『源氏物語』現代語訳書誌資料集成（佐藤由佳）

小林千草・千草子

一九四六年

《単行本》

『絵入簡訳 源氏物語』全三巻。平凡社。

- 「一」（桐壺〜少女） 平成二五年一〇月二五日 四〇六頁
- 「二」（玉鬘〜雲隠） 平成二六年 一月二五日 四四三頁
- 「三」（匂宮〜夢浮橋） 平成二六年 四月 五日 三九三頁

サイズ …一九・五×二三・五cm
 一頁行数…一七行
 一行字数…四二字

山本春正『絵入源氏物語』（東海大学付属図書館桃園文庫蔵）の挿絵を全て掲載。その上で「山本春正が絵画化している要素所は全訳」し、「従なる描写部分は、簡約に訳す」という手法をとっている。なお、千草子は、小林千草のペンネーム。

※全訳とは言い難い面もうかがわれるが、「三」の「はじめに」において、「編訳者の心の中では、全訳に限りなく近い現代語訳となったという思いがあります」と記している点から〈全訳〉の扱いとした。

中野幸一 一九三二年

《単行本》

『正訳 源氏物語 本文対照』全一〇冊。勉誠出版。

〔第一冊 桐壺／帚木／空蟬／夕顔／若菜〕

平成二七年一〇月三〇日 三五五頁

〔第二冊 末摘花／紅葉賀／花宴／葵／賢木／花散里〕

平成二八年 一月一五日 三四三頁

〔第三冊 須磨／明石／滯標／蓬生／閑屋／絵合／松風〕

平成二八年 二月二〇日 三七一頁

〔第四冊 薄雲／朝顔／少女／玉鬢／初音／胡蝶〕

平成二八年 四月二八日 三四六頁

〔第五冊 蛩／常夏／篝火／野分／行幸／藤袴／真木柱／梅枝／藤裏葉〕

平成二八年 六月三〇日 三七七頁

〔第六冊 若菜（上）／若菜（下）〕

平成二八年一〇月 七日 三六五頁

〔第七冊 柏木／横笛／鈴虫／夕霧／御法／幻〕

平成二八年二月二〇日 三六五頁

〔第八冊 匂宮／紅梅／竹河／橋姫／椎本／総角〕

平成二九年 二月二五日 四四〇頁

〔第九冊 早蕨／宿木／東屋〕

平成二九年 四月二五日 三四七頁

〔第十冊 浮舟／蜻蛉／手習／夢浮橋〕

平成二九年 六月三〇日 四二四頁

サイズ …二二・七×一五・五cm

一頁行数…一七行（本文）、二三行（原文）、三五行（頭注・小見出し）

一行字数…二七字（本文）、一五字（原文）、一〇字（頭注・小見出し）

「勉誠出版創業五〇周年記念」として刊行。各帖冒頭に

「小見出し一覧」を付し、現代語訳を中心とし、上段に小見出しおよび頭注をおき、下段に原文をおいている。各巻末に

は、「付録」として『源氏物語』をより深く知るために」と題された『源氏物語』関連および平安朝貴族の生活などにつ

いての論文が掲載されている。また、「参考」として「系図・図録」が付されている。カバーの表裏およびそれぞれの巻の

初めの中扉には、伝土佐光信筆『源氏物語画帖』（早稲田大学図書館九曜文庫蔵）が配されている。

定価は、各巻二、五〇〇円＋税。

※右の「一頁行数」の「（頭注・小見出し）」については、

一頁すべての行がうめられている頁がないため、およびその行数である。

角田光代 一九六七年

《叢書》

『源氏物語』全三巻。河出書房新社。

〔上〕（桐壺）少女） 平成二九年 九月三〇日 六八九頁

〔中〕（玉鬢）幻） 平成三〇年一月三〇日 六六一頁

〔下〕 未刊

サイズ …一九・五×一三・五cm

一頁行数…一九行

一行字数…四四字

《池澤夏樹Ⅱ個人編集 日本文学全集》全三〇巻のうち、

「04」、「05」、「06」。「解題」藤原克巳、「解説」池澤夏

樹。装丁は、佐々木暁。帯写真は、「上」荒木経惟、「中」長

島有里枝。月報付き。「上」発売当初の限定版には、匂い袋

と葉が添付されている。

「下」については、「中」月報に「二〇一九年一月刊行予定」とある。

【参考文献】

・宮田和一郎『頭注対譯 源氏物語』（空蟬 夕顔 若紫）（大正一四年九月五日 文献書院）

・窪田空穂『現代語譯 源氏物語 八』（昭和一八年八月二日 改造社）

・清水好子ほか『源氏物語手鏡』（昭和四八年六月一〇日 新潮社）

・清水好子ほか『源氏物語手鏡』（新潮選書）（昭和五〇年四月二五日 新潮社）

・今泉忠義ほか編『源氏物語』（昭和五二年一月二〇日 桜楓社）

・今泉忠義『源氏物語 語法篇』（昭和五二年一月二〇日 桜楓社）

・大塚ひかり『もっと知りたい源氏物語』（平成一六年四月一〇日 日本実業出版社）

・河添房江編〈講座源氏物語研究 第十二〉『源氏物語の現代語訳と翻訳』（平成二〇年六月二〇日 おうふう）

・吉岡幸雄『源氏物語』の色辞典』（平成二〇年一月一日 紫紅社）

・国立国会図書館デジタルコレクション（<http://dlndi.go.jp/>）

・伊藤鉄也（研究代表者）『海外における源氏物語を中心とした平安文学及び各国語翻訳に関する総合的調査研究』（<http://genjito.org/>）

・伊藤鉄也『源氏物語電子資料館』（genjitosakurane.jp/t_ito/）

・国立情報学研究所 Webcat Plus（webcatplus.nii.ac.jp/）

※本稿に掲出した各訳者による〈全訳〉刊行本については、あらためて掲出しない。